



## ロケーションの設定

ロケーションは、コールアドミッション制御を中央集中型コール処理システムに実装する際に使用します。コールアドミッション制御では、ロケーション間のリンクを経由する際にオーディオコールとビデオコールで使用できる帯域幅を制限することにより、オーディオ品質とビデオの可用性を調整できます。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「コールアドミッション制御」を参照してください。



(注)

コールアドミッション制御を使用して IP WAN リンク上のオーディオ帯域幅またはビデオ帯域幅を制限しない場合、コール数の制限がなくなり、そのリンク上でコールが同時にアクティブになる可能性があります。この状態が発生すると、そのリンクがオーバーサブスクライブになるため、各オーディオコールのオーディオ品質と、各ビデオコールのビデオ品質が低下する場合があります。

中央集中型コール処理システムでは、1つの Cisco Unified Communications Manager クラスタが、IP テレフォニー ネットワーク上のすべてのロケーションにコール処理を提供します。その Cisco Unified Communications Manager クラスタは、通常、電話機やゲートウェイなどの他のデバイスと共に、メイン（つまり中央）ロケーションに置かれています。リモートロケーションには追加のデバイスが置かれていますが、Cisco Unified Communications Manager はありません。IP WAN リンクが、リモートロケーションとメインロケーションとを接続します。

次のトピックでは、ロケーションについて詳しく説明しています。

- [ロケーションの検索 \(P.17-2\)](#)
- [ロケーションの設定 \(P.17-4\)](#)
- [ロケーションの設定値 \(P.17-5\)](#)
- [ロケーションの削除 \(P.17-7\)](#)
- [ロケーションの帯域幅の再同期化 \(P.17-8\)](#)
- [関連項目 \(P.17-8\)](#)

## ロケーションの検索

ネットワーク内にはいくつかのロケーションが存在することがあるので、Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、固有の条件を指定して、特定のロケーションを見つけることができます。ロケーションを検索する手順は、次のとおりです。



**(注)** Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、ブラウザ セッションでの作業中は、ロケーションの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、ロケーションの検索設定は保持されます。

### 手順

**ステップ 1** [システム] > [ロケーション] の順に選択します。

[ロケーションの検索と一覧表示 (Find and List Locations)] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、**ステップ 3** に進んでください。

レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。

- 最初のドロップダウン リストボックスから、検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リストボックスから、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



**(注)** 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

**ステップ 3** [検索] をクリックします。

すべてのレコード、または一致したレコードが表示されます。[ページあたりの行数] ドロップダウン リストボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



**(注)** 該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択] をクリックして [選択項目の削除] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

**ステップ 4** 表示されたレコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

#### 追加情報

P.17-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ロケーションの設定

ロケーションを Cisco Unified Communications Manager データベースに追加、コピー、または更新する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

ロケーションを設定する場合は、事前にクラスタを構成する Cisco Unified Communications Manager を設定しておく必要があります。ロケーションを設定する前に、Cisco Unified Communications Manager を設定しておく必要があります。詳細については、[P.3-4 の「Cisco Unified Communications Manager の更新」](#)を参照してください。

### 手順

---

**ステップ 1** [システム] > [ロケーション] の順に選択します。

[ロケーションの検索と一覧表示 (Find and List Locations)] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 次のいずれかの作業を行います。

- 既存のロケーションをコピーするには、対象となるロケーションを見つけて ([P.17-2 の「ロケーションの検索」](#)を参照)、コピーするロケーションの横にある [コピー (Copy)] ボタンをクリックし、[ステップ 3](#)に進みます。
- 新しいロケーションを追加するには、[新規追加] ボタンをクリックし、[ステップ 3](#)に進みます。
- 既存のロケーションを更新するには、対象となるロケーションを見つけて ([P.17-2 の「ロケーションの検索」](#)を参照)、[ステップ 3](#)に進みます。

**ステップ 3** 適切な設定値を入力します ([表 17-1](#) を参照)。

**ステップ 4** [保存] をクリックして、ロケーション情報をデータベースに保存します。

---

### 次の手順

データベースに新規ロケーションを追加した後、そのロケーションにデバイスを割り当てることができます。たとえば、次の項を参照してください。

- [ゲートウェイの設定 \(P.81-1\)](#)
- [Cisco Unified IP Phone の設定 \(P.82-1\)](#)
- [CTI ルート ポイントの設定 \(P.79-1\)](#)

### 追加情報

[P.17-8 の「関連項目」](#)を参照してください。

## ロケーションの設定値

表 17-1 では、ロケーションの設定値について説明します。関連する手順については、P.17-8 の「関連項目」を参照してください。

表 17-1 ロケーションの設定値


フィールド	説明
[ロケーション情報 (Location Information)]	
[名前 (Name)]	作成する新規ロケーションの名前を入力します。
[オーディオコール情報 (Audio Calls Information)]	
[オーディオ帯域幅 (Audio Bandwidth)]	<p>このロケーションと他のロケーション間のリンク上ですべてのオーディオ コールに使用可能なオーディオ帯域幅の最大値 (kbps 単位) を入力します。オーディオ コールの場合、オーディオ帯域幅はオーバーヘッドを含みます。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>無制限の帯域幅: [無制限 (Unlimited)] オプション ボタンをクリックします。</li> <li>指定の帯域幅: [kbps] ボックスの横にあるオプション ボタンをクリックし、既定の帯域幅を入力して、帯域幅を指定します。有効値は 1 ~ 2147483647 です。</li> </ul> <p>ロケーションの帯域幅の計算だけのために、各コール ストリームは次の帯域幅を使用するものと想定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>G0.711 コールは 80 kbps を使用</li> <li>G.722 コールは 80 kbps を使用</li> <li>G0.723 コールは 24 kbps を使用</li> <li>G0.728 コールは 16 kbps を使用</li> <li>G0.729 コールは 24 kbps を使用</li> <li>GSM コールは 29 kbps を使用</li> <li>Wideband コールは 272 kbps を使用</li> </ul> <p> (注) 各コールは、2 つのコール ストリームから構成されています。オーディオ品質を向上させるには、帯域幅設定値を下げて、このロケーションとのリンク上で許可されるアクティブコール数を減らします。</p>
[ビデオコール情報 (Video Calls Information)]	
[ビデオ帯域幅 (Video Bandwidth)]	<p>このロケーションと他のロケーション間のリンク上ですべてのビデオ コールに使用可能なビデオ帯域幅の最大値 (kbps 単位) を入力します。ビデオ コールの場合、ビデオ帯域幅はオーバーヘッドを含みません。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>なし: ビデオ コールをこのロケーションと他のロケーション間で使用できません。ただし、このロケーション内でビデオ コールを行うことができます。</li> <li>無制限の帯域幅: [無制限 (Unlimited)] オプション ボタンをクリックします。</li> <li>指定の帯域幅: [kbps] ボックスの横にあるオプション ボタンをクリックし、既定のビデオ帯域幅を入力して、ビデオ帯域幅を指定します。デフォルト値は、384 kbps が指定されます。</li> </ul>

表 17-1 ロケーションの設定値 (続き)

フィールド	説明
<b>[ロケーション RSVP 設定 (Location RSVP Settings)]</b>	
[ロケーション (Location)]	この読み取り専用フィールドには、ロケーション間の RSVP 設定値がシステムのデフォルト RSVP ポリシーのものから変更されているロケーションが表示されます。
[RSVP 設定 (RSVP Setting)]	この読み取り専用フィールドには、選択したロケーションと、左側の [ロケーション (Location)] 列にリストされているロケーションの間の RSVP ポリシー設定値が表示されます。
<b>[他のロケーションの設定を変更 (Modify Setting (s) to Other Locations)]</b>	
[ロケーション (Location)]	現在のロケーションと、このペインに表示されるロケーションの間の RSVP ポリシー設定値を変更するには、このペインでロケーションを選択します。
[RSVP 設定 (RSVP Setting)]	<p>現在のロケーションと左側の [ロケーション (Location)] 列で選択したロケーションの間の RSVP ポリシー設定値を選択するには、RSVP 設定値をドロップダウンリストボックスから選択します。次の設定値の中から選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [システムデフォルトの使用] : このロケーション ペアの RSVP ポリシーを、クラスタ全体の RSVP ポリシーと同じものにします。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「クラスタ全体のデフォルト RSVP ポリシー」の項を参照してください。</li> <li>• [予約なし] : どの 2 つのロケーション間においても、RSVP 予約は発生しません。</li> <li>• [オプション (ビデオが必要)] : オーディオ ストリームとビデオ ストリームの予約をどちらも取得できなかった場合に、コールをオーディオのみのベストエフォート型コールとして配送できます。RSVP エージェントは、引き続き RSVP 予約を試行し、予約が成功した場合は Cisco Unified Communications Manager に通知します。</li> <li>• [必須] : Cisco Unified Communications Manager は、オーディオ ストリームのための RSVP 予約が成功するまでは、着側デバイスの呼び出し音を鳴らしません。コールがビデオ コールである場合は、ビデオ ストリームについても同様です。</li> <li>• [必須 (ビデオが必要)] : ビデオ ストリームのための予約を取得できなかった場合に、ビデオ コールをオーディオのみのコールとして配送できます。</li> </ul>

## ロケーションの削除

Cisco Unified Communications Manager データベースからロケーションを削除する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

デバイスが割り当てられたロケーションは削除できません。ロケーションを使用しているデバイスを検索するには、[ロケーションの設定 (Location Configuration)] ウィンドウの [関連リンク] にある [依存関係レコード] をクリックし、[移動] をクリックします。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、P.A-4 の「[依存関係レコードへのアクセス](#)」を参照してください。使用中のロケーションを削除しようとする、Cisco Unified Communications Manager からエラーメッセージが表示されます。現在使用されているロケーションを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- デバイスを更新して、別のロケーションに割り当てる。
- 削除するロケーションに割り当てられているデバイスを削除する。



(注)

ロケーションを削除すると、そのロケーションに接続されているリンクに帯域幅が無制限に割り当てられ、それらのリンク上のコール数も制限がなくなります。このためロケーションを削除すると、リンク上のオーディオ品質が低下する原因になります。

### 手順

- ステップ 1** P.17-2 の「[ロケーションの検索](#)」の手順を使用して、ロケーションを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除するロケーションを選択します。
- ステップ 3** [選択項目の削除] をクリックします。
- ステップ 4** 削除操作を確認するように求められたら、[OK] をクリックして削除を確認します。削除操作を取り消す場合は、[キャンセル] をクリックしてください。

### 追加情報

P.17-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ロケーションの帯域幅の再同期化

この項では、ロケーションの帯域幅を再同期化する手順について説明します。ロケーションへのリンクを使用したコールがブロックされる場合は、帯域幅が不足している、つまりロケーションに割り当てられた帯域幅が減少している可能性があります。Cisco Unified Communications Manager サーバをリセットせずに、ロケーションの帯域幅を、このロケーションに割り当てられている最大値に再同期化することができます。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「コールアドミッション制御」の章の「帯域幅の計算」を参照してください。

### 手順

---

**ステップ 1** P.17-2 の「[ロケーションの検索](#)」の手順を使用して、ロケーションを検索します。

**ステップ 2** 一致するレコードのリストから、再同期化するロケーションを選択します。

[ロケーションの設定 (Location Configuration)] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 3** [帯域幅を再同期] をクリックして、選択したロケーションの帯域幅を再同期化します。

次の警告メッセージが表示されます。「帯域幅が再同期された際に、このロケーションのための帯域幅をコールで使用している場合、このロケーションのための帯域幅を使用しているすべてのコールが接続解除されるまで帯域幅が過剰登録される可能性があります。」

**ステップ 4** [OK] をクリックして続行するか、[キャンセル] をクリックしてキャンセルします。

---

### 追加情報

P.17-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 関連項目

- [ロケーションの設定 \(P.17-1\)](#)
- [ロケーションの検索 \(P.17-2\)](#)
- [ロケーションの設定 \(P.17-4\)](#)
- [ロケーションの設定値 \(P.17-5\)](#)
- [ロケーションの削除 \(P.17-7\)](#)
- [ロケーションの帯域幅の再同期化 \(P.17-8\)](#)